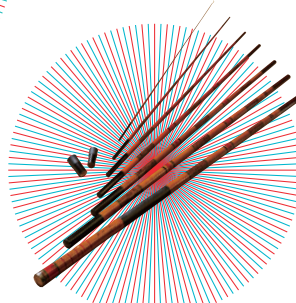
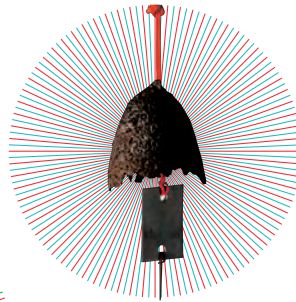


宮城の伝統的工芸品

MIYAGI TRADITIONAL CRAFTS



伝統的工芸品
パンフレット



宮城県経済商工観光部新産業振興課



1981年(昭和56年)6月国指定

宮城伝統こけし

みやぎでんとうこけし



江戸末期、東北地方の温泉地で作られ始めたと伝わる、こけし。温泉地のある山間部は木材が豊富で、木地師によって生活に必要な木製の椀、盆、鉢などが作られました。その副業として木地人形が作られ、湯治客の土産物にされたといわれています。こけしの魅力は、最も簡略化された造形美と可憐な姿にあるともいわれます。当初は子どもの玩具として、近年は飾って楽しむ大人が増えています。

見る・触れる

こけしに出会える3つのサイト

産地ごとに、見て触れられる施設や、各工房を紹介。サイトによって商品の購入も可能です。



1991年(平成3年)5月国指定

鳴子漆器

なるこしっき



江戸前期、鳴子地区を治めていた岩出山伊達家の当主が、家臣を京都に派遣し、塗り^{まきえ}と蒔絵の修業をさせたことにより、漆器作りが盛んになったとされています。木地になる良質な木が豊富だったこともあり、江戸後期には、塗り物が温泉地、鳴子の主要な産物となっています。鳴子漆器は、華やか過ぎず、かしこまり過ぎず。素朴で使いやすい丈夫な日用の漆器として、親しまれています。

見る・触れる

「大崎市 鳴子漆器」ウェブサイト

鳴子漆器の歴史、技法、椀や三段重の製品写真、問い合わせ先「鳴子総合支所 地域振興課」などが紹介されています。



1985年(昭和60年)5月国指定

雄勝硯

おがつすずり



室町前期から、石巻市雄勝町では硯が生産されていたと伝えられています。太平洋に面した雄勝町の一帯は、2億5000万年以上前の断層上にあり、この断層から硯の材料となる雄勝石が採掘されます。江戸時代には仙台藩の初代藩主、伊達政宗に献上され、明治から昭和時代には学童用の硯として広まり全国の硯の90%を生産。東日本大震災で大きな被害を受けましたが、再び雄勝硯が作られています。

見る・触れる

「雄勝硯生産販売協同組合」 サイト

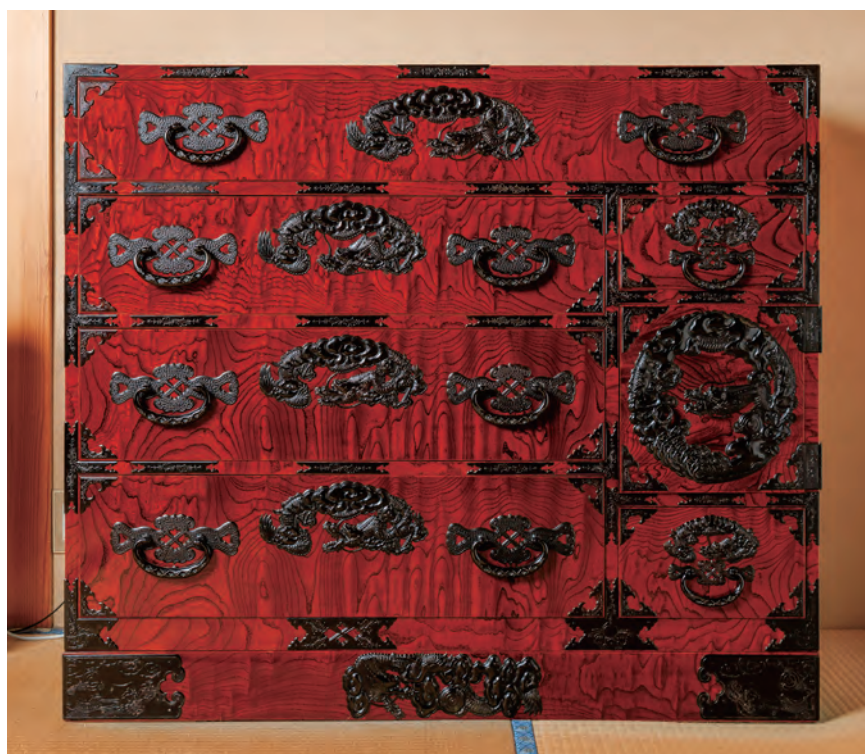
政宗が愛用した硯(複製)や国内外の硯を展示する雄勝硯伝統産業会館の紹介など。雄勝石の皿もサイトから購入できます。



2015年(平成27年)6月国指定

仙台筆筥

せんだいたんす



江戸末期、仙台藩の地場産業として仙台筆筥は始まります。武士が刀を収める幅4尺(約120cm)を原型に発展。明治中期から欧米に向けて輸出し、立体的に打ち出した華やかな金具が加わり、全国でも類を見ない華麗な筆筥になりました。その後、大正から昭和にかけて嫁入り道具として普及。仙台近郊の旧家では100年以上使い続けられていることも少なくない、仙台を代表する伝統工芸品です。

見る・触れる

「仙台筆筥協同組合」 ウェブサイト

仙台筆筥の歴史や職人の紹介をはじめ、オンラインショップでは小筆筥、舟筆筥、ローチェストなどを販売しています。



1982年(昭和57年)12月県指定

白石和紙

しろいしわし

ふくよかに、きよく、うるわしいと平安朝の昔、清少納言にも愛用された陸奥紙の良質をそのまま受継ぐ白石和紙は、伊達政宗の殖産奨励保護の下に発展し、和紙を使った紙衣や、紙布織も名産に。現在も地元白石産の材料にこだわり、昔も今も変わらぬ技術・技法を引き続いて和紙作りが行われています。



見る・触れる

「白石和紙 蔵富人」

ウェブサイト

白石和紙の歴史や工程、ワークショップを紹介。市内の「霽丸屋敷」では展示販売のほか、原材料や紙布織用の道具なども見学可能です。



1982年(昭和57年)12月県指定

岩出山しの竹細工

いわでやましのたけざいく

江戸中期、岩出山城主が京都の竹細工職人を招いて創始されたと伝えられています。城主の夫人が京都出身であったことから竹林造営と職人の技術を導入。藩士の副業として奨励され、後に農閑期の副業に。現在も広く日用品として愛用されています。



見る・触れる

「大崎市竹工芸館」

ウェブサイト

米とぎざるやご飯ざる、インテリアなどの作品を紹介。現地では制作・実演を見学でき、しの竹細工づくり体験教室も開催しています。



1985年(昭和60年)5月県指定

仙台釣竿

せんだいつりざお

1601年、四百数十年前、仙台藩を開いた藩祖伊達政宗が愛用していた鮎竿を、昭和初期に竿政が修復。どっしりとした拵えと野太い調子の仙台竿を現代に蘇らせました。その粋な装飾と細仕かけで大物を釣り上げる本調子が、仙台竿『竿吉』の始まりです。



見る・触れる

仙台釣竿の実物と実演の見学も可能

◆竿政竹竿製造店

田村政孝

仙台市若林区

南鍛冶町106-2

TEL.022-227-0374

仙台釣竿や万年筆の購入も可能です。

※電話予約必要

1985年(昭和60年)5月県指定

仙台御筆

せんだいおふで

江戸初期、仙台藩祖の伊達政宗が藩の学問と産業振興を目的に、大坂の筆職人を雇い創始したと伝えられています。良質の原毛を使用し、1人の筆匠が一貫して作り上げる仙台御筆は、弾力があって墨持ちがよく、長年にわたって愛用できるのが特徴です。



見る・触れる

仙台御筆が数々そろう
西川玉林堂

初心者から書家向けまで、仙台市の「西川玉林堂」で御筆に触られます。

◆(有)西川玉林堂

仙台市若林区荒町201

TEL.022-223-8217

1985年(昭和60年)5月県指定

仙台平

せんだいひら

「仙台平」は、江戸中期から続く高級絹織物です。しわになりにくく品位のある風合いを持ち、特に袴地は皇室や幕府への献上品としても珍重されました。その技術「精好仙台平」は重要無形文化財に指定。現在も国内外の栄えある授賞式で着用されています。



見る・触れる

「仙台平」 公式サイト

礼装や舞台、茶道、子ども用など、用途に合わせた袴や帯も紹介。オンラインショップでは、スマホポシェットなど小物も購入できます。



1985年(昭和60年)5月県指定

若柳地織

わかやなぎじおり

宮城県北部の若柳地区を中心に綿織物が生産されたのは明治末期。大正期には豊田佐吉が発明した豊田式鉄製小幅動力織機(Y式)が導入され、地織は若柳名物といわれるまでに。さまざまな縞模様のほか、無地の織布も生産されています。



見る・触れる

日常着から小物、布地 まで約80種を常設

◆千葉孝機業場

栗原市若柳字川北塚ノ越12
TEL.0228-32-3087

「栗原市観光ポータルサイト」でも紹介されています。



1982年(昭和57年)12月県指定

松笠風鈴

まつかさふうりん

江戸中期、仙台藩主から所望された風鈴を、鋳物師である10代目江田氏が創作したのが始まりとされています。鋳造時にできる巣穴を生かした砂鉄の風鈴は、音色の良さで選ばれ、その形から松笠風鈴と名付けられました。澄んだ音色と余韻が特徴です。



見る・触れる

「松笠風鈴」 ウェブサイト

松笠風鈴の沿革、作家の略歴、特徴、音色により異なる商品や価格帯も紹介。「松笠風鈴」で検索すれば、動画で音色を聞くこともできます。



1982年(昭和57年)12月県指定

中新田打刃物

なかにいだうちはもの

江戸前期、仙台藩の刃匠丹野五郎兵衛が中新田地域に適した鎌を作ったのが中新田打刃物の始まりと伝えられています。刀鍛冶の技法に新しい技術を加え、熱して、打って、形を整えていく空打式により、切れ味がよく使いやすい鎌や包丁が作られています。



見る・触れる

「中新田打刃物」 紹介動画

一丁ずつ空打ちして作られる工程や愛用者のインタビューなどを紹介。「石川刃物製作所」Facebookでは各種包丁を見ることができます。



1984年(昭和59年)2月県指定

堤人形

つつみにんぎょう

西の伏見、東の堤と評される土人形の二代源流の一つ、堤人形。その始まりは江戸中期と伝えられています。歌舞伎や浮世絵から抜け出たような優雅な色彩と形は、東北の土人形や張子人形に大きく影響。現在も技と心が守り継がれています。



見る・触れる

工房ごとに約100点の
堤人形に出合える

◆芳賀堤人形製造所
芳賀強

仙台市青葉区堤町3-30-10
TEL.022-275-1133

◆つつみのおひなっこや

詳細は
こちらから→



1985年(昭和60年)5月県指定

玉虫塗

たまむしぬり

昭和初期、輸出振興を目的として、仙台に設置された国立工芸指導所が開発した技法を源流としています。玉虫塗は、漆の上塗り前に銀粉を蒔くことで生まれる独特の発色が特徴。時代と共に、国内外向けの食器へ、文具へと変遷している仙台生まれの漆芸です。



見る・触れる

「東北工芸製作所」
ウェブサイト

商品一覧や取扱店などを紹介。希望に応じたオリジナルの玉虫塗や名入れ蒔絵体験の相談も可能。直営店では約30点に触れられます。



1990年(平成2年)3月県指定

仙台堆朱

せんだいついしゅ

明治末期、新潟県村上堆朱の工人川崎栄之丞によって技術が普及。大正期に型抜きで量産する技法が開発されたのが、仙台堆朱の始まりです。その後、蒔絵の技法を取り入れるなど変遷。現在、木地に彫刻し、漆で仕上げる技法が受け継がれています。



見る・触れる

「こけしのしまぬき」
ウェブサイト

菓子鉢や名刺盆、葉書入れなど「仙台堆朱」のさまざまな商品をオンラインショップから購入可能。本店でも取り扱っています。



1982年(昭和57年)12月県指定

埋木細工

うもれぎざいく

江戸後期、仙台藩の下級武士が埋木を発見し、日常の工芸品を作ったことに始まるといわれています。約500万年前の樹木が地中に埋もれて炭化した山埋木を、手彫りの刳物技法と拭き漆によって仕上げられたのが埋木細工。全国に類のない仙台独特の工芸品です。



見る・触れる

「秋保工芸の里」
ウェブサイト

埋木細工の由来や工房、作品を紹介。工房では茶器、花器、香合、鷹の置物などの見学、和菓子ナイフの購入も可能です。





1985年(昭和60年)5月県指定

仙台張子

せんだいはりこ

江戸末期、仙台藩の下級武士による内戦として始まった仙台張子^{はりこ}。その代表が藩士松川豊之進が創始したとされる松川だるまです。かつて大崎八幡宮の元朝参りなどで求められ神棚に祀^{まつ}られていた縁起物は、近年、身近な存在として飾られています。



見る・触れる

二つの工房で出会う、
だるまや張子玩具

仙台張子の会

◆本郷だるま屋

仙台市青葉区川平4-32-12
TEL.022-347-4837

◆つつみのおひなっこや

詳細は
こちらから→



1982年(昭和57年)12月県指定

堤焼

つつみやき

江戸前期、堤町に住む士族の副業として始まり、元禄七年(1694年)に仙台藩主が江戸の陶工を招き指導にあたらせ杉山焼とし、後に堤焼と名づけられた。付近の台原から採れる良質な粘土を使い、藩窯としてかつて多くの窯で水甕や鉢、食器等を生産。岩を砕いた黒釉に米の粃殻灰の白釉を掛け流した海鼠釉が特徴です。



見る・触れる

「堤焼乾馬窯」
ウェブサイト

堤焼の歴史、作り手、制作品、取扱店、体験教室などを紹介。堤焼乾馬窯には食器や花器をはじめ、大物の水甕や壺も展示されています。



1984年(昭和59年)2月県指定

切込焼

きりごめやき

創始は諸説ありますが、江戸後期から明治初期まで宮崎町切込地区で生産されていた陶磁器を切込焼と呼びます。仙台藩の御用窯として栄える一方、素朴な日用雑器も生産。染付磁器を主流とする伝統を生かし作陶されています。



見る・触れる

「切込焼 三浦陶房」
ウェブサイト

切込焼の歴史や三浦征史さん、早苗さん、征太郎さんの作品をはじめ、実際に見て触れられる展示会の情報などを紹介しています。



2025年(令和7年)3月県指定

台ヶ森焼

だいがもりやき

昭和後期、古来の技法と素材を使って生まれた陶磁器が台ヶ森焼です。産地は、平野部の垂炭土と山間部の白磁系土の土が産出される全国でも珍しい土地とされ、縄文の土器・奈良時代の瓦窯・江戸期の窯跡があり、様々な焼物が出土しています。地産土と灰で鉄分の美しさに銅分が流れる、様々な色合いを出す台ヶ森釉を主に生産し、地産土と天然素材が織りなす自然な変化が特徴の工芸品です。



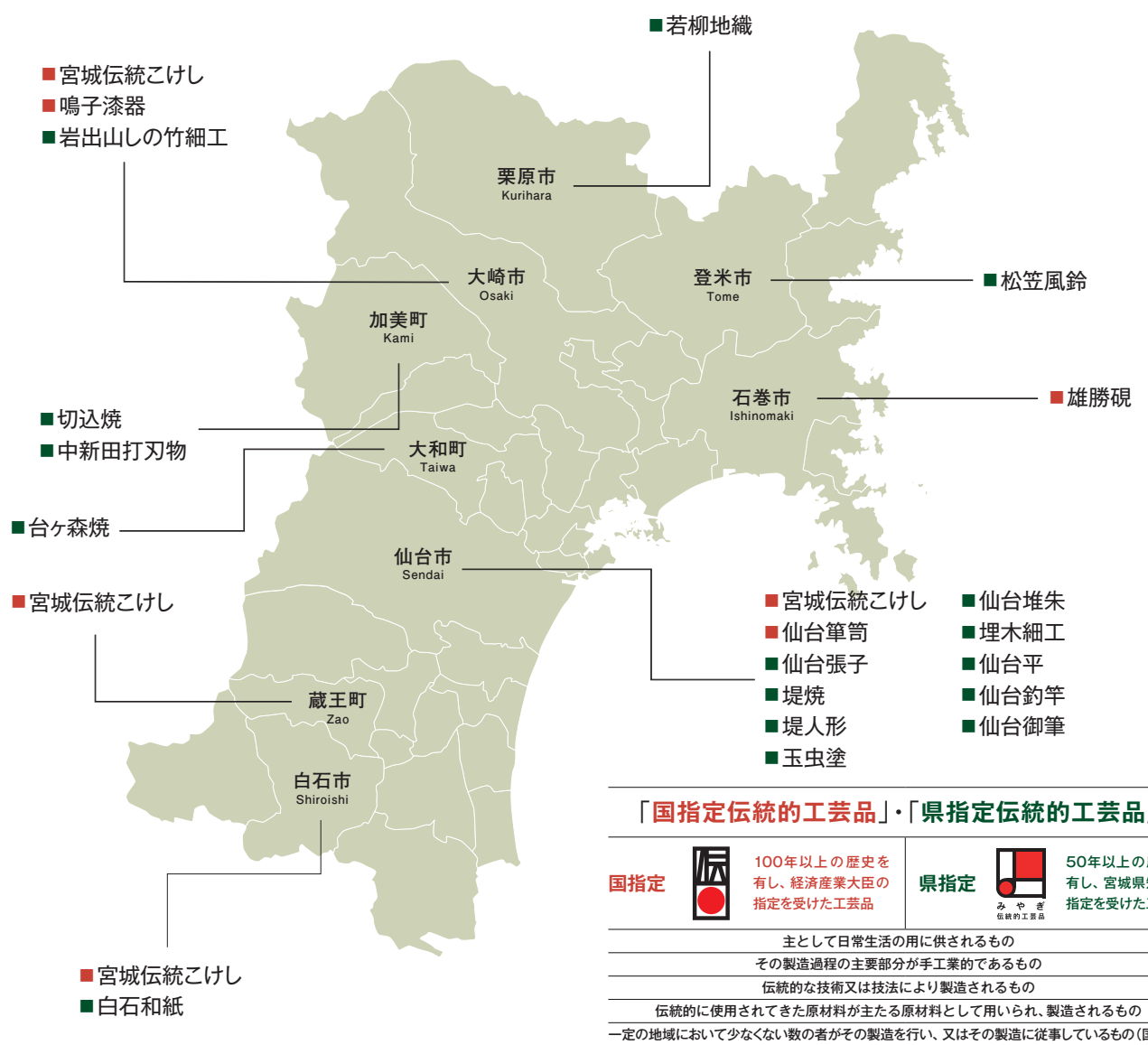
見る・触れる

「台ヶ森焼」
公式サイト

窯元が作った湯呑や茶碗、花器などを体験館で販売。陶芸教室も開催しております。



宮城県の伝統的工芸品マップ



「国指定伝統的工芸品」・「県指定伝統的工芸品」

国指定



100年以上の歴史を有し、経済産業大臣の指定を受けた工芸品

県指定



50年以上の歴史を有し、宮城県知事の指定を受けた工芸品

主として日常生活の用に供されるもの	
その製造過程の主要部分が手工業的であるもの	
伝統的な技術又は技法により製造されるもの	
伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるもの	
一定の地域において少なくない数の者がその製造を行い、又はその製造に従事しているもの(国指定)	

問い合わせ先一覧

宮城伝統こけし	鳴子木地玩具協同組合	〒989-6827 大崎市鳴子温泉字尿前74-2(日本こけし館)	Tel.0229-83-3600
	遠刈田伝統こけし工人組合	〒989-0916 蔵王町遠刈田温泉字新地西裏山36番地135(みやぎ蔵王こけし館)	Tel.0224-34-2385
	弥治郎こけし業協同組合	〒989-0733 白石市福岡八宮弥治郎北72-1(白石市弥治郎こけし村)	Tel.0224-26-3993
	仙台地区伝統こけし工人組合	〒989-3212 仙台市青葉区芋沢字沢田下15	Tel.022-394-6030 090-8783-9105(事務局早坂)
鳴子漆器	大崎市鳴子総合支所	〒989-6892 大崎市鳴子温泉字鷺ノ巢86番地1	Tel.0229-82-2111
雄勝硯	雄勝硯生産販売協同組合	〒986-1335 石巻市雄勝町下雄勝2丁目17番地	Tel.0225-57-2632
仙台筆筒	仙台筆筒協同組合	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-7-3 ユノメ家具本店4階	Tel.022-225-8368
仙台張子	仙台張子の会	〒981-0954 仙台市青葉区川平4丁目32-12	Tel.022-347-4837
堤焼	(株)堤焼乾馬窯	〒981-3121 仙台市泉区上谷刈字赤坂8-4	Tel.022-372-3639
切込焼	三浦陶房	〒981-4401 加美町宮崎字中野1-30	Tel.0229-69-5152
台ヶ森焼	百窯の里 セツ森陶芸体験館	〒981-3624 大和町宮床字高山120番地	Tel.022-346-2377
堤人形	芳賀堤人形製造所 芳賀強	〒981-0912 仙台市青葉区堤町3-30-10	Tel.022-275-1133
	つつみのおひなっこや 佐藤明彦	〒981-0902 仙台市青葉区北根1丁目16-14	Tel.022-725-3757
玉虫塗	(有)東北工芸製作所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉3丁目3-20 ユナイテ上杉ビル1階	Tel.022-222-5401
埋木細工	泉の森 小竹孝 埋もれ木細工美術館	〒982-0241 仙台市太白区秋保町湯元字上原54-30	Tel.090-9823-8076
仙台平	(資)仙台平	〒982-0844 仙台市太白区根岸町15-5	Tel.022-246-3141
若柳地織	千葉孝機業場 千葉孝順	〒989-5501 栗原市若柳字川北塚ノ越12	Tel.0228-32-3087
白石和紙	白石和紙 蔵富人	〒989-0273 白石市中町48-5	Tel.0224-25-6054
松笠風鈴	江雲堂 江田薫	〒987-0702 登米市登米町寺池金谷17-1	Tel.0220-52-2038(登米店) 0283-25-4323(佐野店)
中新田打刃物	石川刃物製作所	〒981-4241 加美町字南町20	Tel.0229-63-3095
岩出山の竹細工	大崎市竹工芸館	〒989-6436 大崎市岩出山字二ノ構115	Tel.0229-73-1850
仙台釣竿	竿政竹竿製造店 田村政孝	〒984-0061 仙台市若林区南鍛冶町106-2	Tel.022-227-0374
仙台御筆	大友毛筆店 大友博興	〒984-0057 仙台市若林区三百人町112	Tel.022-256-5420

宮城県経済商工観光部 新産業振興課